

獣医臨床病理学研究室所属、博士課程3年、伊賀瀬雅也は、韓国、ソウル、Seoul National Universityで開催された **The 9th Joint Symposium of Veterinary Research in East Asia** に参加しました。参加の目的は、本研究室における研究内容の発表と、他の大学の大学院生との意見交換および情報収集です。発表内容は、英語での口頭発表でした。本シンポジウムには、アジアの獣医学部をもつ大学が参加しており、Seoul National University, National Taiwan University, National Ping Tung University of Science and Technology, National Chia-Yi University, Asia University などの日本以外の大学も多く参加しています。そのため、本学会での発表は、英語でのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を必要とし、国内では少ない貴重な経験が可能でした。

発表内容は、私が学部時代より研究を続けているレオウイルスを用いた腫瘍溶解性ウイルス療法についてです。私たちはこれまでに、実際の腫瘍症例犬に対する本治療法の安全性と治療効果について評価するため、本学附属動物医療センターで前臨床試験を実施しました。その結果、本治療の安全性と有用性を確認できましたが、その試験のなかで、完治する症例は認められませんでした。そこで、さらなる治療効果を期待し、レオウイルスの効果を増強できる新規併用薬剤の探索を実施しました。今回は、その新規併用薬剤の同定と、ウイルス増殖の促進に関わるメカニズムの解析について発表しています。

今回で私は、本シンポジウムの出席が2回目となります。前回は、慣れない英語での発表のため、私たちの研究内容を聴衆にあまり理解してもらえませんでした。1年間、英語の練習をすることで、今回は、プレゼンテーション賞を受賞することができました。

また、アジア圏の大学院生と交流することができ、研究に対する姿勢について、とても刺激をもらいました。最終日は、フライトまでの時間が少しありましたので、山口大学の大学院生の先輩らと佐藤研究科長と一緒にソウル観光できたこともいい思い出です。

また、機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。

